（別添③）事業概要及びロジックモデル

独立行政法人日本スポーツ振興センター秩父宮記念スポーツ博物館の取組概要（令和７年度 Innovate MUSEUM事業）

資料５

文化庁

事業名及び中核館

スポーツ文化共創「つながる」プロジェクト
（中核館：秩父宮記念スポーツ博物館）

交付要望額

交付要望額：19,898,000円
（ネットワークの形成による広域等課題対応事業）

主な連携先

中京大学スポーツミュージアム（大学スポーツミュージアム）
わかやまスポーツ伝承館（地域のスポーツミュージアム）
日本オリンピックミュージアム（オリンピックミュージアム）
札幌オリンピックミュージアム（オリンピックミュージアム/ウィンタースポーツミュージアム）
野球殿堂博物館（競技スポーツミュージアム）

現状の課題

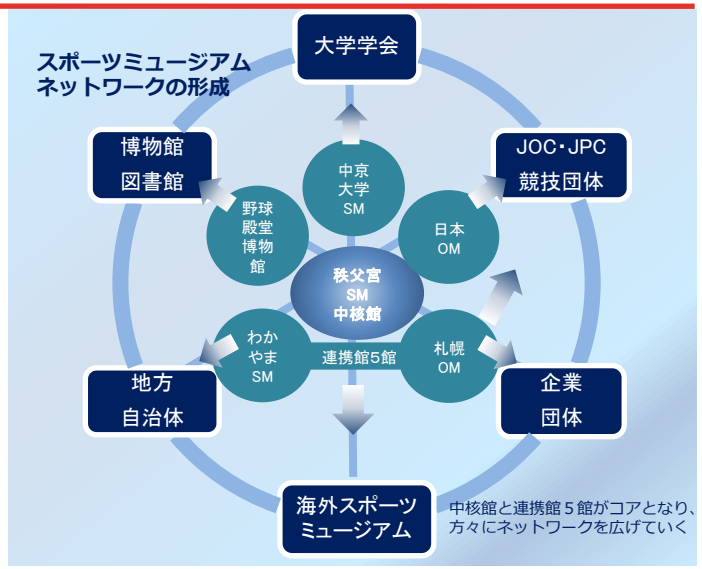
国内のスポーツミュージアムの多くは学芸員等の専門職員が配置されておらず、①展示品や展示テーマ・ストーリーが固定的、②スポーツに関する記録や歴史の情報検証が不十分、③単館での収集活動範囲の限界、といった課題として抱えている。また、スポーツミュージアムの運営形態や館として取り扱うテーマ（スポーツ選手の顕彰、特定の競技、オリンピック、スポーツの歴史全般など）が多岐にわたっており、スポーツミュージアム同士の持続的な連携が未だできていない。

事業概要及び目的

【目　　的】各館の活動が持続できるように、スポーツミュージアムに関する活動を下支えする連絡協議会を設置し、他館との連携を通じてスポーツミュージアムが成長・発展していくことを目的とする。
【事業概要】連携館と現状の課題や海外事例調査・交流を通じて得た知見を共有しながら、スポーツミュージアムの社会的役割や課題解決策等について検討を重ね、スポーツミュージアム同士が持続的に連携するための「スポーツミュージアム連絡協議会（仮称）」を設置する。

事業のモデル性･先進性

①スポーツミュージアム同士が持続的に連携できる仕組みを構築。
②秩父宮記念スポーツ博物館が中核となり、海外スポーツミュージアムとのつなぎ役となる。



連携館のリソースとスポーツミュージアムネットワーク形成への寄与

●中京大学スポーツミュージアム：研究知見
スポーツに関する記録や歴史の情報検証に寄与。

●わかやまスポーツ伝承館：スポーツ文化に関する地域コミュニティ確立
来館者や資料提供協力者との関係構築の在り方を提案。

●日本オリンピックミュージアム及び札幌オリンピックミュージアム：IOCのオリンピックミュージアムネットワーク（OMN）加盟活動
国際的なネットワーク活動の経験から、展示活動や本プロジェクトで立ち上げる連絡協議会の在り方を提案。

●野球殿堂博物館：殿堂活動による野球文化ネットワーク確立
展示活動や日常的な関係団体や殿堂活動を行う海外との関係構築の在り方を提案。

●秩父宮記念スポーツ博物館：中核館としてのリソース
複数の学芸員や司書の在籍、ICOM-ICMAHのワークショップ参加実績による海外スポーツミュージアムとのパイプ、スポーツミュージアムシンポジウムの実施から、中核館として連携協議会を取りまとめ、海外との連携を推進。

独立行政法人日本スポーツ振興センター秩父宮記念スポーツ博物館の取組（ロジックモデル）

事業の取組		事業アウトプット		事業アウトカム
事業の取組1 スポーツミュージアム連絡協議会（仮称）設立準議会議の開催	事業の実施	事業アウトプット1 ・月1回の定例会議開催 ・課題の抽出及び分析		・設立準備会議が円滑に機能し、具体的な設立計画が策定される。 （評価指標：計画の完成度）
事業の取組2 国内外スポーツミュージアム事例調査・交流及び国際情報発信		事業アウトプット2 ・先進事例調査：国内外8か所 ・国際会議（ICOM）での情報発信及び情報交換 ・事例調査報告会＆シンポジウムの開催：1回		・国内外の先進事例から得られた知見や技術を持ち帰り、質の向上を図る。 （評価指標：調査報告書） ・国際会議等を通じて日本のスポーツミュージアムの現状を発信する。 （評価指標：会議の参加国数・参加者数）
事業の取組3 スポーツミュージアム連絡協議会（仮称）第1回総会準備・開催		事業アウトプット3 ・規約の作成 ・WEBページ開設 ・第1回総会の開催 ・連携団体：15団体		・スポーツミュージアム連絡協議会（仮称）の運営方針が確立され、認知度が向上する。 （評価指標：規約の完成度、WEBページアクセス数） ・国内外スポーツミュージアム同士の連携が深まる。 （評価指標：連携団体数）

※アウトカムについては定性的側面が強いが、評価指標を設定して達成度合いや事業や取組の課題について検証する観点は必要